

(様式3)

外国人児童生徒等教育アドバイザー派遣結果報告書

都道府県名	千葉	市町村名	松戸	大学名	
派遣日	令和 4年 1月 14日 (金曜日) 14:00~17:00 (派遣当日の次第) 1、松戸市日本語指導体制 概要の説明・質問と助言 (14:00~15:00) 2、令和4年度「にほんごルーム」構想についての説明・質問と助言 (15:00~16:00) 3、日本語指導全般についての質問と助言 (16:00~17:00)				
実施方法	※いずれかに○をつけてください。 (派遣) / 遠隔				
派遣場所	松戸市教育委員会指導課				
アドバイザー氏名	目白大学人間学部児童教育学科専任講師 近田 由紀子先生				
相談者	松戸市教育委員会学校教育課指導課 課長、課長補佐、指導主事 計4名				
相談内容	1 松戸市日本語指導体制の説明と質問 ・加配教員の研修内容や、松戸市独自のシステムの中に未経験の教員達をどう組み込んで連携していけばよいか。 2 令和4年度「にほんごルーム」構想についての説明と質問 ・「特別の教育課程」の編成方法や指導計画作成の手順、評価について。 ・教員の指導スタイル、1日の流れ、個別指導やグループ・全体指導といった指導法。 ・日本語指導教員が配慮すべきこと、事前に準備しておくこと、環境づくりや在籍する学校との連携方法。 ・「にほんごルーム」を卒業する(本来の在籍校に戻る)タイミング。 ・行政の関わり。 3 日本語指導全般についての質問 ・特別支援との見極めが難しく、日本語指導だけでは解決が難しい児童生徒への指導について。 ・家庭での日本語環境がない児童生徒への日本語指導。				
派遣者からの指導助言内容	1 松戸市日本語指導体制について ・日本語指導教員・日本語支援スタッフ・日本語協力者の仕事内容、役割を明確にする。日本語指導教員は、児童生徒が在籍学級の学習に参加できるように導く。日本語指導支援スタッフは、今まで通り初期の日本語を取り出しで行う。日本語協力者は、学校生活だけでなく日本語が話せない保護者対応や児童生徒の心理面もサポートしていけるとよい。 ・生活言語能力は来日1~2年で育つと言われているので、これを日本語支援スタッフ・日本語協力者がみるとよい。一方、学習言語能力が年齢相応になるには、5~7年かかり長い子供は10年にもなると言われている。この学習言語能力を日本語指導教員が育てるとよい。				

	<ul style="list-style-type: none">・日本語支援スタッフ・日本語協力者に対して、ゴールを示し、指導方針を明確に伝えとよい。 <p>2 令和4年度「にほんごルーム」構想について</p> <ul style="list-style-type: none">・日本語と教科の統合学習を行う。「特別の教育課程」ができるよう、日本語指導教員が時間割を作成し、単元構成を考える。在籍学級での学習に参加しやすいの技能教科を抜けずに、個別に時間割を組めるとよい。・児童生徒は、在籍学級の友と学びたい、また実年齢の学年の学習を学びたいという思いが強い。1対1の個別指導も有効であるが、同一学年の児童生徒が「にほんごルーム」に来室し、単元構成や学習活動を工夫して授業を実施することを通して、日本語と教科の学びの相乗効果をねらう。そのため「にほんごルーム」に来室する児童生徒のグループ編制を考え、在籍学級で行われている授業の先行学習を行ったり、在籍学級の学習の進捗を考慮して指導したりすることによって、クラスで活躍できるようにするとよい。・日本人学校や東京都港区立筈小学校の取り組み例の紹介。 教科横断型で日本語指導をしていくと効果的である。生活科や総合的な学習の時間で取り組まれているような、児童生徒が実際に体験する学習を通して積み重ねながら日本語を身に付けていけるとよい。また、自分のルーツに関連があるものはモチベーションが上がる。児童生徒に「伝えたい」という思いをもたせてあげると日本語に対する意欲の向上につながる。・個別の指導計画は「かすたねっと」に掲載されている例を参考にして、実態に合わせて作成するとよい。主に、実態・目標・指導内容を記入する。指導内容は、日本語指導教員が指導することのみでなく、日本語指導支援スタッフが指導することも記入し、どんな人がかかわっているかが分かるとよい。 <p>3 日本語指導全般についての質問</p> <ul style="list-style-type: none">・家庭では母語を大切にする。母語は認知発達やアイデンティティの基盤となる。無理に日本語で話すことを勧めると、日本語が話せない保護者と子供とのコミュニケーションが育めなくなることもある。保護者が母語を「継承語」として教えている場合もある。
相談後の方針の変化、今後の取組方針等	<p>今回の研修を受けて、日本語指導支援スタッフや日本語協力者といった松戸市独自のシステムと、新たに創設する「にほんごルーム」の役割が明確になり、今後の指導の方向性がみえた。また、「にほんごルーム」で行う「特別の教育課程」では、どのようにカリキュラムや時間割を組んでいけばよいのか共通理解することができた。今後、日本語研修会等で指導員やスタッフに伝達していきたい。</p> <p>1 松戸市日本語指導体制について</p> <ul style="list-style-type: none">・2月17日に、日本語指導教員・日本語支援スタッフ・日本語協力者の研修会を実施。その際、仕事内容、役割を明確に伝達する。 <p>2 令和4年度「にほんごルーム」構想について</p> <ul style="list-style-type: none">・令和4年度スタートに向け、市内複数校で調整を行っていく。・「にほんごルーム」の環境整備を進める。・「にほんごルーム」を開設する日本語指導教員への研修を行う。

(様式3)

	<p>(2月、4月に実施予定)</p> <ul style="list-style-type: none">・ 取り組み事例で紹介された学校を視察する。
--	--

1枚にまとめる必要はありませんので詳細に記載願います。

なお、本報告書の内容は、文部科学省ホームページで公開いたします。